

## 蠟梅 Now

東京五輪の開会式まで半年を切りパラリンピックと共に、いよいよカウントダウンに入った。56年ぶりの世紀の祭典を成功させ、将来に向けて持続可能な五輪としての範を示す為、官民ワンチームでの取り組みが望まれる。「安全・安心な五輪」の実現には、積み重ねた諸対策に漏れがないか改めて検証し、万全の準備を進めなければならない。

昨今の情勢から、「サイバー空間」での備えが欠かせない。不正なアクセスの繰り返しに伴うシステムダウンに依る大会運営の混乱は避けなければならない。「現実空間」での対策も当然、重要な課題である。今大会では会場が都市部に分散するなど警備上の問題が多い。顔認証システムやAI等の新しい技術も積極的に活用していくべきだろう。円滑な輸送態勢の確保には、渋滞や混雑回避に有効と思われるテレワークの導入も効果が高い。

大会の成否のカギの一つに暑さを含めた気象への対処が挙げられる。近年の温暖化等に起因する猛暑を前提に、日除けや街路樹、冷却用設備等の用意と共に、熱中症対策の啓発を進めることも大切である。台風や豪雨など荒天時の措置も考慮する必要がある。

国連が掲げる17の持続可能な開発目標（SDGs）の推進に向けた取り組みのなかでも、自然環境に大きな影響を与える温暖化対策は特に国際的な関心が高い。石炭火力の新增設を掲げる日本は国際的な反発の矢面に立たされている。舵取りの巧拙を問われる正念場に入ったが、さて・・・。

## 閑話休題。

当法人のシンボルツリー「蠟梅」は、年初には既に開花していた。昨年末に人知れず開花したようである。2004年、法人設立の記念樹として植樹したもので、樹齢は20年程度であろう。例えるに、楚々とした佇まいに寂しさを漂わせる黄色の花弁に、馥郁とした香りが揺蕩いながら鼻腔をくすぐる。



樹影をみると、土壌改良して植樹したものの、あまり効果がなかったようで、その間手入れを怠ったわけでもないが、のびのび育ったとはいえない。それでも、関係者のご苦勞もあって、何とか、健気に開花を続けてくれたことは嬉しい限りである。

昨年8月、生誕の地西神から移植した蠟梅2世は、移植のショックだったのだろうか全てが落葉してしまい、二の舞の危機と思いきや、新たに葉を付けた。が、年末にはそれも落葉してしまい、今は枯れ木同然の姿になっている。冬枯れを経て、春遠からじ。新たな生命が芽吹くのを心待ちにしている。

### 《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸  
事務局長 大森 信

〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7

TEL&FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)

E-mail : info@npo-ftfk.or.jp

URL : <http://www.npo-ftfk.or.jp>